

各 位

2022年1月17日
株式会社天夢人

日本刀の歴史から成り立ち、鑑賞のポイントなどが一冊でわかる。
豊富な写真と図版満載の『日本刀入門 この1冊で魅力がわかる』を発売。

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝峰富雄）は、2022年1月17日に、『日本刀入門 この1冊で魅力がわかる』を刊行いたしました。

--



日本刀は、他に類を見ないほど優れた武器であると同時に、見るものを引き込む卓越した美術品でもあります。武器であり、芸術品であり、宝物でもある。それゆえに日本刀には、独特の奥深さがあり、多方面から味わうことのできる幅の広さがあります。たとえば、刀を使用した武将・武人をテーマにした歴史的なドラマに興味を持つこともできるでしょう。あるいは、日本刀の材料となる鋼づくり、伝統的製鉄法に面白みを感じる人もいるかもしれません。刀工の技や息遣いを伝える刃文や、青みがかった地鉄の美しさは素晴らしく、名刀の鑑賞体験は何にも代えがたいものになるはずです。

日本刀の魅力を知るには、実にさまざまなアプローチ、いくつかの入口があります。本書は、それらをなるべく広く網羅して紹介する一冊。日本刀に初めて触れる人にも深い魅力の一端を知るきっかけとなる入門書です。



上ノ平安時代の刀身によく見られる小切先。刀身に比べて先鋒の幅が広く、土俵の両端を穿ち切る。他の部分からなる寛平の切先は、狭子切先(先鋒の幅が広くは切れるもの)で、先鋒に比べて段差をもって幅狭くなる。同じ平安時代の太刀に多い形。

三日月宗近

刀身 山科三宗
刀作 三宗宗近
刀期 平安時代
現在地 京都
所蔵 京都府立総合資料館
寸法 刀身長90cm / 反り2.7cm

平安王朝の華やきを 体現した伝説の名工

江戸時代初期、豊臣秀吉の言葉「ねね(白鳥)の遺物として徳川秀忠に贈られ、以来徳川将軍家に伝来した。

享保年間(1716-1736年)、本阿弥宗近が本代将軍三宗の命を受けて刀剣目録である「享保名物帳」を編み上げた。そこに本刀が記載されており、以後「三日月宗近」と呼ばれるようになった。また、宗近は宗近作の伝説の太刀、小鏡を探索させたが、ついに発見できなかったという。

明治維新後、徳川は多くの家名を手放すことになり、三日月宗近も行方不明となった。その後、名刀を収集していた安永家の下で、経て東京国立博物館に寄贈され、国宝に指定された。

平安期を代表する優美さ。三日月宗近は天下五輪のひとつに数えられており、その優美な刀姿は天下五輪第一と讃えられる。三宗(小倉治宗)と通称される宗近は京都三條に住し、山城国三條流の始祖とされる。時めかかも儀式部や御前御所が活躍し、最もやかな王朝文化が栄えた平安時代後期の時代だった。

宗近、鹿梅、細身で総反りが高く小切先。刃長は80cmと長大である。これも平安時代初期の完全な刀の作りかたの遺物を傳へ、しかも王朝文化を象徴するような優美さである。また、刃文に三日月形のうちのみを連ねていることから三日月宗近と名づけられたのである。



毛抜形連撃手刀。中世末の武器。連撃手刀は、刀身が長く、柄が短く、両手を握って使用する。平安時代後期から室町時代にかけて、各地に名工が輩出する。山城国には三宗宗近、備前国には宗近、友成、正頼、伯耆国には安綱などが「折れず、曲がらず、よく切れる」一筋であり、全国各地の刀工集団の始祖となっていく。

「日本刀の誕生」

実用性と美を兼ね備える。日本刀の歴史を語るのに欠かさないのが、中部地方以北、特に東北・北陸地方を中心とする「越前・越中」で、6-9世紀後半に倭国(東)の歴史によって製作され各地に広まったとされる。刀身は直刀だが、柄を内側に反った「折反り」することで、「突き刺す」から「斬る」に技法が変わった。だが、刀身と柄が鉄で作られているため、衝撃の衝撃が強い。そこで、藤手刀の柄に細長い木を差し入れて、握力を強める毛抜形連撃手刀が考案された。

毛抜形連撃手刀は反りをもった毛抜形太刀へと進化し、鎌倉時代初期の武士たちに流行する。やがて馬上戦で効果的な長手刀で反りを深めた彎刀、強度を強めた廣葉の太刀が生まれ、

平安時代中期から鎌倉時代初期にかけて、各地に名工が輩出する。山城国には三宗宗近、備前国には宗近、友成、正頼、伯耆国には安綱などが「折れず、曲がらず、よく切れる」一筋であり、全国各地の刀工集団の始祖となっていく。

孫六兼元

近世刀工の祖とされる孫六兼元(1704-1774)は、現在の大分県津久喜市に生まれ、幼少時に父を失い、母と弟と共に生活した。父の死後、母と弟と共に生活した。父の死後、母と弟と共に生活した。父の死後、母と弟と共に生活した。



名刀を集めた昭和初期の『今村押形』(国立国会図書館蔵)に記載された2代兼元の押形(左端)、「孫六兼元」の文字が見える。

「三本杉」で知られる名工。兼元は、現在の兼元市(現大分県津久喜市)に生まれ、幼少時に父を失い、母と弟と共に生活した。父の死後、母と弟と共に生活した。父の死後、母と弟と共に生活した。



日本刀製作と流通に連なった土地柄だったことによる。このうち関(現在の岐阜県関市)を拠点に鍛冶した刀工に、代々兼元を名乗る集団が出現する。この兼元の中で、最高級の妙手とされるのが孫六の孫六を冠して、孫六兼元と呼ばれる刀工であり、関鍛冶の2代目相良守兼元、いわゆる「二虎」として、美濃政治の双壁とされている。関政治の因は関者が兄弟の契りを結んでいた旨を記す。最高のライバルにして、最高の理解者同士という関係だったと推察される。兼元を名乗る刀工は室町時代中期に出現した。江戸時代に成立した「文安二年」の年紀を切った作刀がある。この「孫六」を屋号として栄えたのが初代兼元だ。その後、一部には再び赤坂を離れる刀工もいたが、引き継ぎされる地に残って日本刀を鍛冶し集団がいた。孫六兼元の名で知られる刀工も、直江津津見まがう

孫六兼元の名を冠して、美濃政治の双壁とされている。関政治の因は関者が兄弟の契りを結んでいた旨を記す。最高のライバルにして、最高の理解者同士という関係だったと推察される。兼元を名乗る刀工は室町時代中期に出現した。江戸時代に成立した「文安二年」の年紀を切った作刀がある。この「孫六」を屋号として栄えたのが初代兼元だ。その後、一部には再び赤坂を離れる刀工もいたが、引き継ぎされる地に残って日本刀を鍛冶し集団がいた。孫六兼元の名で知られる刀工も、直江津津見まがう




鑑賞の方法

日本刀は手に取って鑑賞

近年では日本刀を展示する美術館も多くなっている。美術館や博物館では、展示ケースに飾られた刀剣をガラス越しに鑑賞するのが一般的。ごく普通に接する鑑賞方法だ。ただし残念ながら、日本刀の鑑賞方法として、展示ケースに入った刀身は決してベストとはいえない。絶妙な微妙な肌合いや刃文の繊細な様子、刃中の働きのどきはなかなかガラス越しでは見にくいのだ。

では、日本刀はどのように鑑賞するのがよいのか。実際に手に取り、ライトの光を刀身に当て、角度を変えながら鑑賞するのがベスト。手に取った際、刀身の重みを感じられるのも鑑賞のポイントだ。近年では、美術館などで展示方法にも工夫が凝らされ、繊細な刃文や絶妙な様子や重みを上手に配膳しているケースも多い。とはいえ、刀剣の魅力をより深く堪能するには、やはり実際に手に取って鑑賞してみたい。刀剣類の収集・展示に力を入れているミュージアムでは、積極的に刀剣鑑賞会を開催している施設も多い。また一部の刀剣商でも定期的な鑑賞会を開催しているので、積極的に参加してみよう。

【目次】

はじめに

第1章 名刀を鑑賞する

三日月宗近

信濃藤四郎

一文字吉房
来国俊
明石国行
籠手切正宗
ニッカリ青江
虎徹
井上真改
圧切長谷部

第2章 日本刀の魅力を知るキーワード

「日本刀」の誕生
「古刀・新刀・新々刀」を知る
「太刀・打刀・脇指」を知る
「国宝刀剣」を知る
「名物」を知る
「五箇伝」を知る
「天下五剣・天下三槍」を知る
「業物位列」を知る

第3章 名工を知る

三条宗近
藤四郎吉光
手搔包永
来国俊
長船長光
正宗
郷義弘
長船兼光
関兼定
孫六兼元
村正
越前康継
井上真改
津田助広
長曾祢虎徹
源清麿

第4章 日本刀を愛した武人・天皇

後鳥羽上皇

上杉謙信

織田信長

豊臣秀吉

徳川家康

明治天皇

第5章 日本刀の見方を学ぶ

鑑賞の方法

刀姿の見方

造り込みの見方

棟・茎・茎尻の見方

地鉄の見方

刃文の見方

帽子の見方

刀身彫刻・銘の見方

Column

焼失した名刀

折紙と本阿弥家

刀工の里を訪ねる

新選組と日本刀

【書誌情報】

書名：『日本刀入門 この一冊で魅力がわかる』

仕様：A5版 160ページ

定価：2200円（本体2000＋税10%）

発売日：2022年1月17日

全国書店、オンライン書店のAmazonなどで発売中。

<https://amzn.to/3GSOZdJ>

【株式会社天夢人】 <https://temjin-g.com/>

2007年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道（奇数月21日発売）』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証 1 部 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当:武田

Tel: 03-6413-8755 / E-mail: info@temjin-g.co.jp

URL: <https://temjin-g.com/>